



第24回

W LEAGUE

Women's Japan Basketball League

SEASON REPORT

2023年

一般社団法人バスケットボール女子日本リーグ



事業報告 | 概要

今シーズン第24回Wリーグは、昨シーズンが東京2020オリンピック後の活躍により大きな注目を浴びたこともあり、その熱気を冷ますことなく、さらに女子バスケットボールを国内外に知っていただくために非常に重要なシーズンとして位置付けておりました。

またWリーグはここ2年にわたり、新型コロナウィルス事情を考慮し、多くの試合をWリーグが主管し、PBAがその運営協力を行い、「1節1会場複数試合実施」という集中開催により、開催地における過不足のない均一的なコロナ対策を実施する運営スタイルを行ってまいりましたが、本年より、当リーグが従来掲げる「普及」と「強化」の旗印の下、日本全国のPBAが主管者として開催を行うスタイルにての開催に踏み切りました。

「久しぶりのWリーグ」は3年ぶりに加え東京2020オリンピック後としては初めてとなったこともあり、全国各地25都道府県各所にて多くのお客様にお越しいただきました。総入場者数は16万人を超え、ようやくコロナ前の活況を取り戻した感がある一方で、500人以下に留まる会場もあるなど、集客にバラつきが見られたのも確かです。女子バスケットボールの盛り上りを一過性のものとせず、さらにその輪を広げていくためにも、次年度以降の課題とし、来場客数に拘った運営を目指してまいります。それでも、チーム・選手・関係各位の努力と協力の下、本年は新型コロナウィルスの影響による中止試合は開催2ゲームにとどまり、振替により全日程を完走することができました。また、本年は従来のサマーキャンプ、オータムカップに加え、若き日本代表チームを招いての交流戦となる「**SUPER GAMES**」を初開催いたしました。代表チームの強化に寄与する他、将来のWリーグ選手候補の発掘、そしてWリーグ現役世代の更なる魅力拡大など、新しいイベントとして多方面でご評価いただきました。

シーズンにおいては昨年が延長戦にまでもつれたゲームが0試合（オールスターを除く）であったのに対し本年はファイナルを含み10試合と大幅に増えたことや、レギュラーシーズン最終日まで順位が確定しないことなど、各チームの実力が拮抗し、魅力的なゲームを多くお届けできたという一つの事象だったかと思います。迎えたプレーオフファイナル、「ENEOSサンフラワーズvsトヨタ自動車アンテロープス」はその実力拮抗の今シーズンを象徴するような、歴史に残る死闘となり、2戦先勝制では初となる第3戦にまでもつれた戦いはENEOSサンフラワーズがトヨタ自動車アンテロープスの3連覇を阻止し、3年ぶりのチャンピオンの座に返り咲きました。また、京王電鉄という新しいパートナーと共に、沿線の象徴である武蔵野の森総合スポーツプラザへは昨年記録したWリーグ入場者数最高記録である7,151人にこそ達しなかったものの、セミファイナルでは過去最高の観客数となる他、プレーオフ全体としては昨シーズンを上回る観客数を達成した他、沿線の住民・企業・行政が一体となった様々なプロモーションや施策により、大きな賑わいを創出するという新しいスキームを実現することができました。

その他、Wリーグファンの更なる拡大と固定化を図る施策として「**WリーグUNIVERSE**」のスタート、それに伴う「FAN☆JAM」の開催。好評なトレーディングカードやアクリルスタンダードなどリーグ公式グッズの全国販売ネットワークの構築、「Wコレ」「Dream Teams」などファンとリーグを結ぶエンゲージメント施策の拡充を積極的に行い、「#行こうよWリーグ」のフレーズの下、ファン拡大に努めました。

コート外においては現役選手が現役中においても学びの場を提供するコンセプトの下、自由参加型のオープンセミナーとなる「**Wリーグアカデミー**」を開講。全4回ともに半数以上の選手が聴講するなどキャリア構築のための新たな施策となりました。

Wリーグは次シーズン25年目の節目を迎えます。国内感染状況の好転を機に、安心安全なアリーナ観戦に向けたお客様の環境醸成が進むことを期待するとともに、Wリーグとしても観客増に向けた更なるアプローチを展開していく所存です。来たる第25回大会が平常な状態で開幕できるようリーグとしても肃々と準備を進めてまいります。

本年度のリーグ regulasion

3年ぶりに全国都道府県での開催が復活 ~北は北海道から南は沖縄まで全国25都道府県での開催~

女子バスケットボールをより広く国民に《普及》させること。
選手の技術向上、チーム《強化》に努め、内外にアピールすること。

→ 左記目的に基づき、日本全国各地にて
トップレベルの試合を展開。



全国の皆様、ご支援・ご声援、誠にありがとうございました。

第24回 **W**リーグ SEASON REPORT

入場者状況

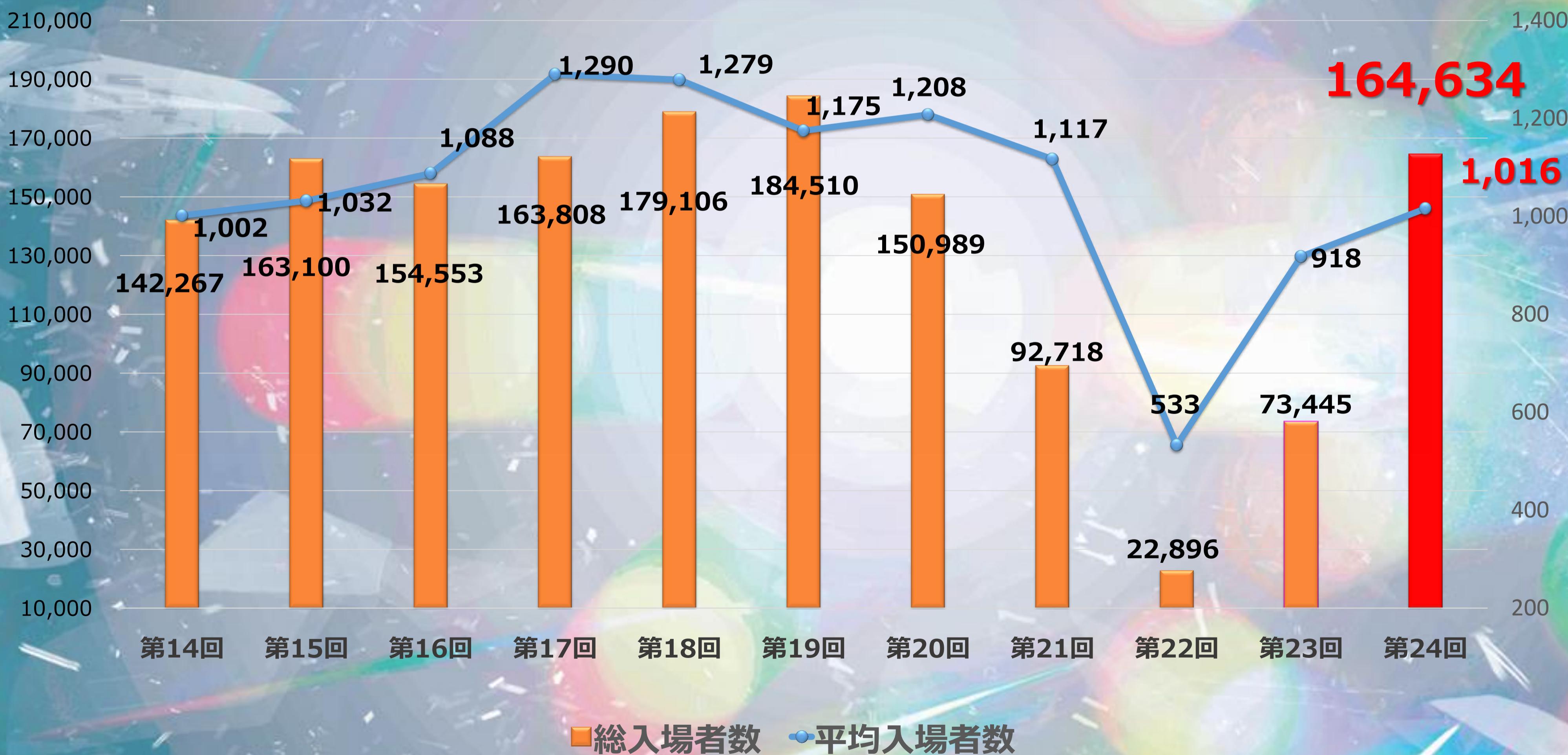
Women's Japan Basketball League

入場者数推移 / 入場者数ランキング

入場者数推移

第24回大会 (2022-23 Season)

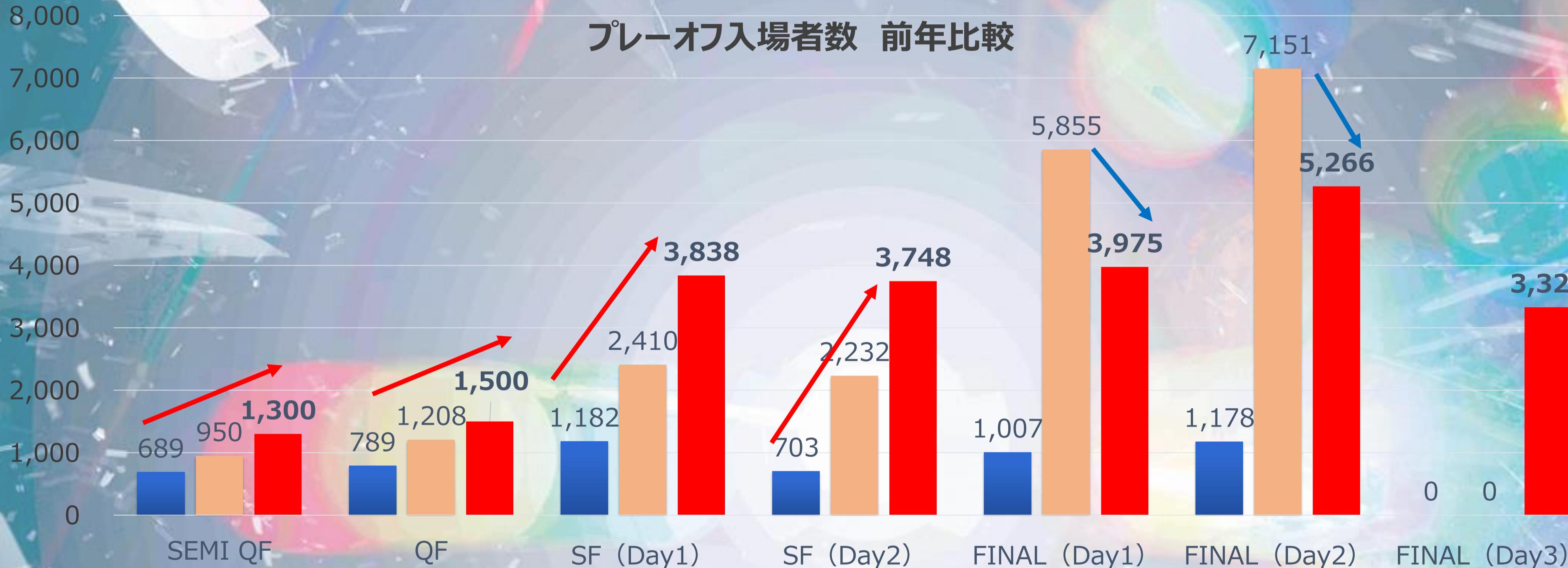
3シーズンぶりに全国開催を再開。※フルシーズンでは4シーズンぶりの全国開催。
コロナ前の観客数が戻りつつある状況ともいえるが、地域差・カード差もみられる状況。
総数では目標値（前年比160%）を大幅に上回ったものの、1試合あたりの平均値では
目標値（前年比142%）を下回る。カード&地域格差の是正が今後の大きな課題。



入場者数推移

第23回大会 (2021-22 Season)

※プレーオフにおける前年、前々年と本年の比較



ファイナルにおける過去最多入場者数7,151人には及ばず。記録更新へのチャレンジは継続。

プレーオフ全体ではファイナルの3戦開催の影響もあり前年比116%の22,956人を動員。

■ 一昨年 ■ 昨年 ■ 本年

開催別入場者数ランキング

RANK	日付	会場	対戦カード	合計	備考
1	2023/4/16	武蔵野の森総合スポーツプラザ	ENEOS vs トヨタ自動車	5,266	プレーオフファイナルGame2 ※リーグ歴代3位の動員数
2	2023/4/15	武蔵野の森総合スポーツプラザ	ENEOS vs トヨタ自動車	3,975	プレーオフファイナルGame 1
3	2023/4/8	武蔵野の森総合スポーツプラザ	デンソーvsENEOS トヨタ自動車vsシャンソン	3,838	プレーオフセミファイナルGame 1 ※セミファイナル歴代最多動員
4	2023/4/9	武蔵野の森総合スポーツプラザ	デンソーvsENEOS トヨタ自動車vsシャンソン	3,748	プレーオフセミファイナルGame 2
5	2023/4/17	武蔵野の森総合スポーツプラザ	ENEOS vs トヨタ自動車	3,329	プレーオフファイナルGame3
6	2023/3/11	北九州市立総合体育館	ENEOS vs シャンソン	3,084	3年ぶりの開催
7	2023/3/12	照葉積水ハウスアリーナ	ENEOS vs シャンソン	2,977	3年ぶりの開催
8	2022/10/22	大田区総合体育館	東京羽田 vs 富士通	2,447	クラブ主催最多
9	2023/1/11	北海きたえーる	トヨタ自動車 vs 日立ハイテク	1,883	Bリーグ同時開催
9	2023/4/2	新潟市東総合スポーツセンター	ENEOS vs 富士通 三菱電機 vs シャンソン	1,883	プレーオフクォーターファイナル
参考	2023/4/30	有明アリーナ	Wリーグオールスター Day2	4,187	※オールスター歴代最多動員

※「セミファイナル」と「オールスター」で歴代動員数を更新。

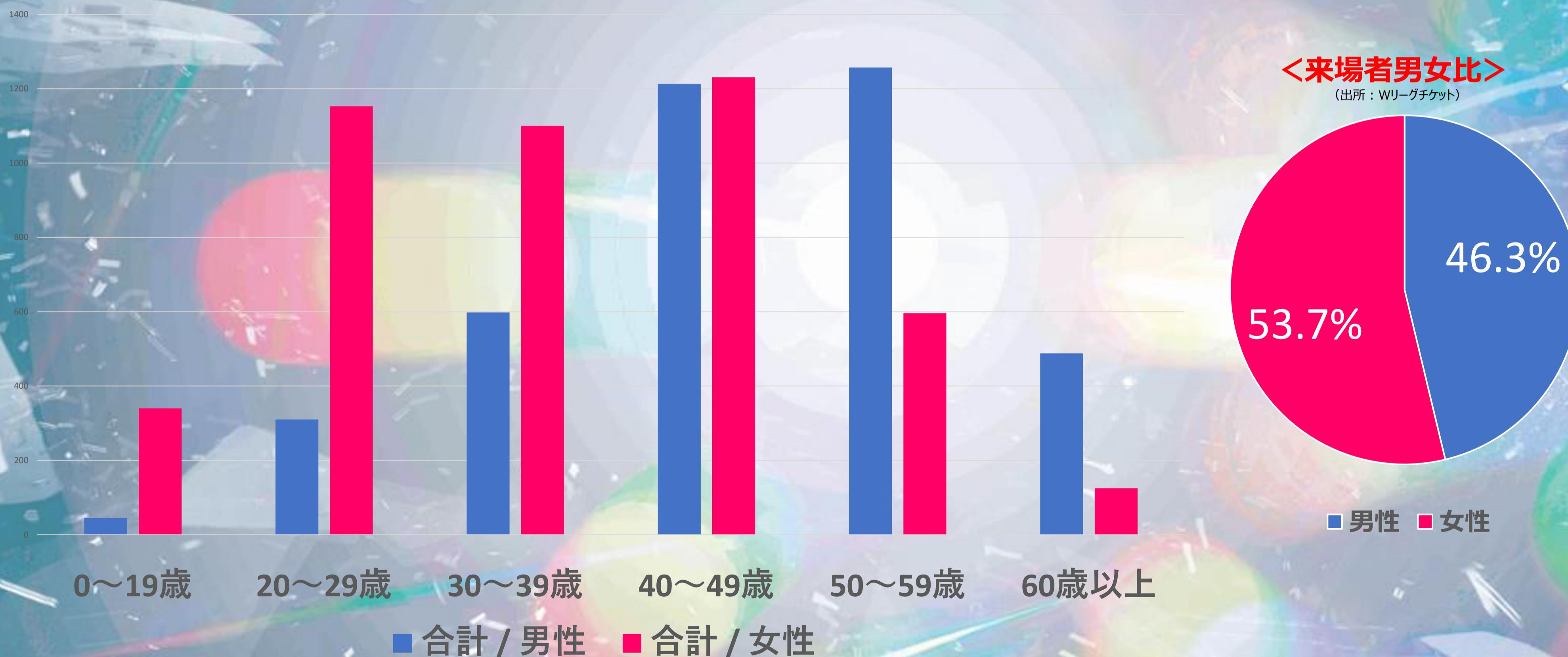
第24回 **W**リーグ SEASON REPORT

来場者分析・SNS

Wリーグチケット会員 / SNSフォロワー

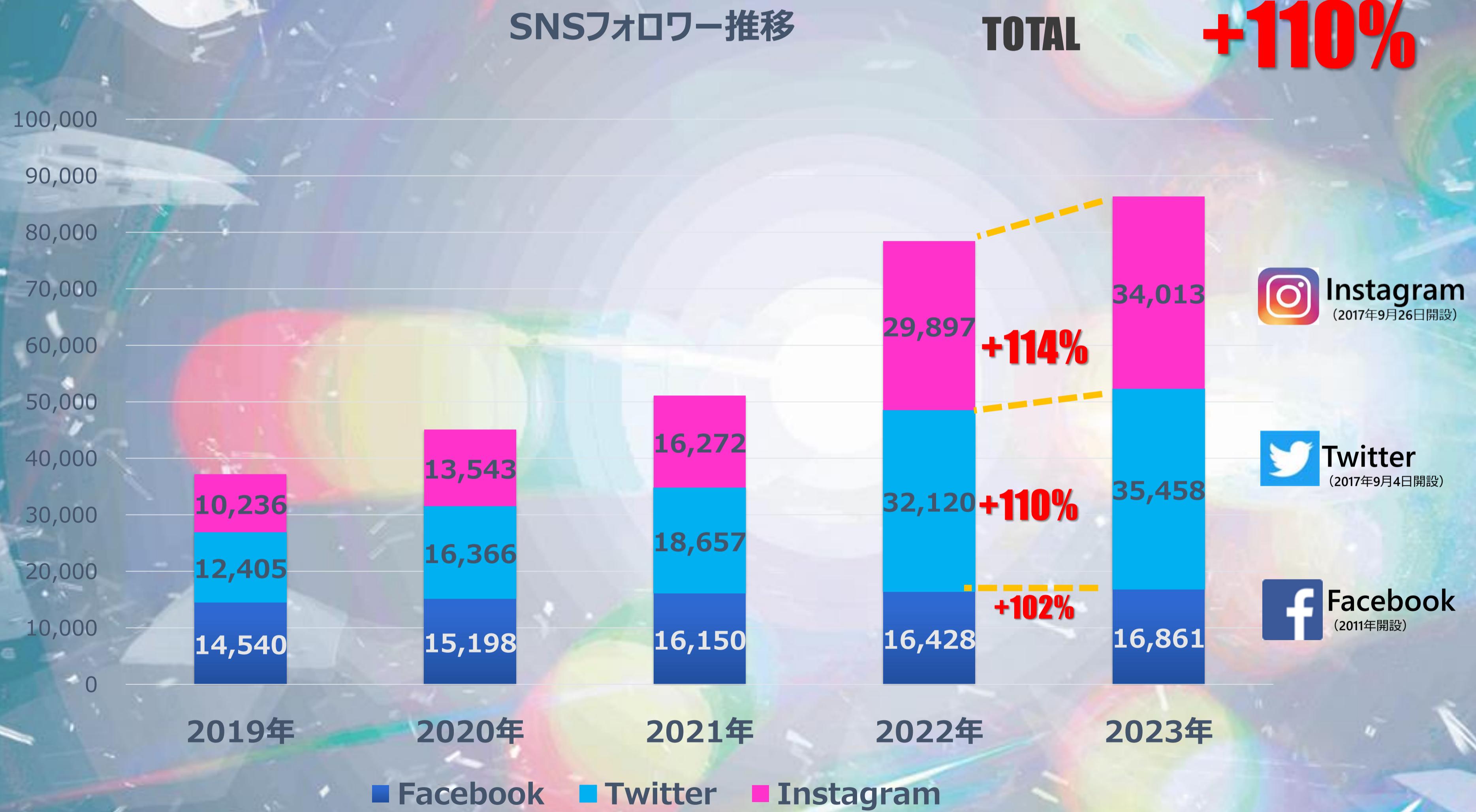
来場者属性

Wリーグにご来場くださるお客様の男女比は46:54
「若年層女性」と「中高年男性」がコアゾーン。
選手をロールモデルとして憧れる女性観客層を引き続き育んでいきたい。



SNS推移

東京2020五輪を経て堅調も、やや停滞傾向に。抜本的見直しが必要。



達成目標 と 自己評価

- ・リーグ戦+PO+AS 全197試合の完走 ○
→2Gameの中止も振替し、SUPERGAMEを新たに開催。
- ・PBA+クラブ各主管試合における黒字興行 ✗
→開催地格差あり。更なるサポート体制の強化が必要。
- ・観客動員数 120,000人(前年比163%) ○
→観客動員数 164,843人(前年比224%)
コロナ前の状態に回復はしたが、不十分な状況である
- ・平均観客動員数 1,300人(前年比142%) ✗
→平均観客動員数 1,024人(前年比112%)
- ・ファイナル観客動員数 7,152人(前年比+1人) ✗
→ファイナル観客動員数 5,266人(前年比-1,886人)

Wリーグ新ビジョン
(Wリーグ版JBS)
2023年6月発表に向けた準備
JBA・BLG・チーム企業・JSBとの連携

安定的な事業基盤の確立
自主興行黒字
ステークホルダーの拡大
ファン・ファースト

チーム・PBA・クライアント
を安定的にサポートできる
強力な事務局体制の構築



第24回 **W**リーグ SEASON REPORT

TOPICS

Women's Japan Basketball League

サマーキャンプ・オータムカップ（高崎）～開幕会見～シーズン開幕戦～



レギュラーシーズン (前半)



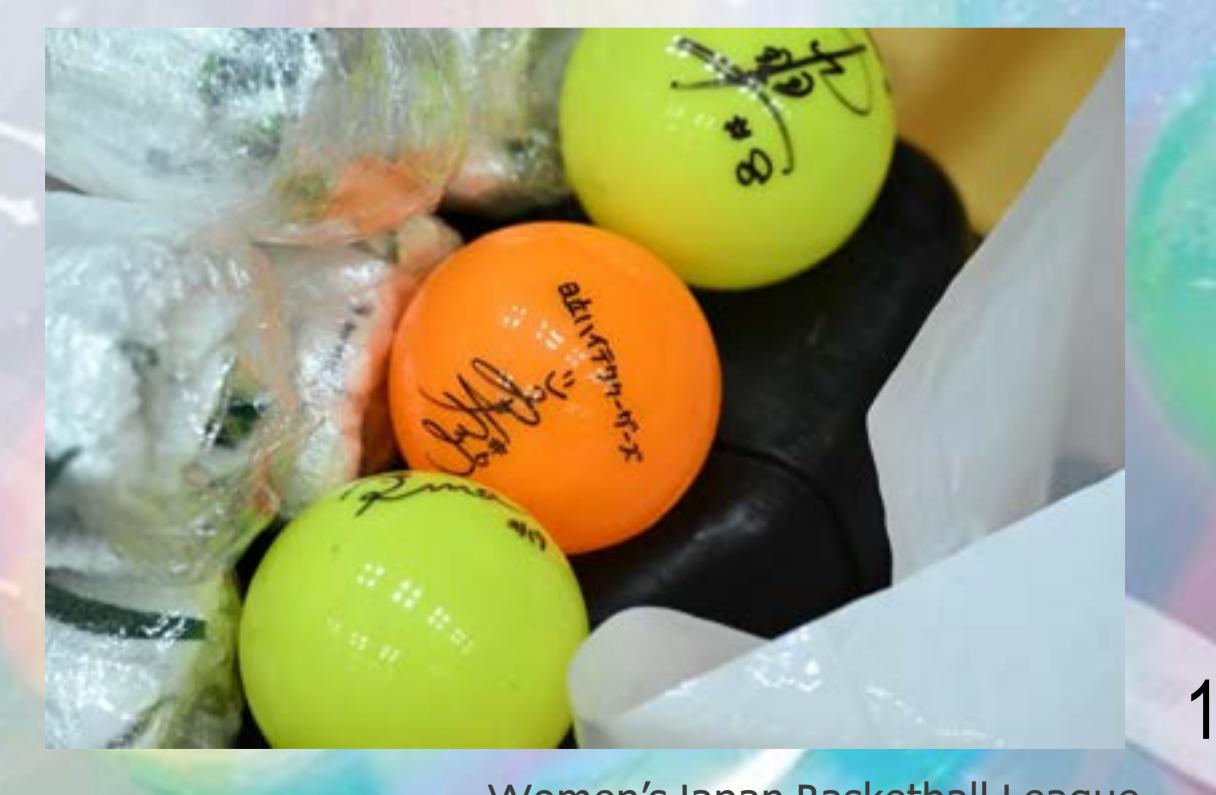
試合後全ての会場でエンディングマイクを実施



試合後のコート1周でファンへの感謝を実感



昨年下位チームによるアップセットが多発



レギュラーシーズン（後半）



3/4-5 今年も国際女性デーイベントを実施

最終日まで順位が未確定。史上かつてない大混戦に。



アーリーエントリー選手が後半から躍動



最終日までもつれた首位争いはデンソーが制す







ファイナル@武蔵野の森総合スポーツプラザ 第3戦にもつれる歴史的な名勝負！再延長を制したENEOSが王座奪還。



試合結果



【プレーオフファイナル結果】

4月15日（土）

ENEOSサンフラワーズ 47-55 トヨタ自動車 アンテロープス

4月16日（日）

ENEOSサンフラワーズ 74-65 トヨタ自動車 アンテロープス

4月17日（月）

ENEOSサンフラワーズ 72-64 トヨタ自動車 アンテロープス

《優 勝》 ENEOSサンフラワーズ

（Wリーグ：4年ぶり17回目の優勝

※日本リーグを含めると23回目の優勝）

《準優勝》 トヨタ自動車 アンテロープス

3位 デンソー アイリス

4位 シヤンソン化粧品 シヤンソンVマジック

5位 三菱電機 コアラーズ

6位 富士通 レッドウェーブ

7位 トヨタ紡織 サンシャインラビッツ

8位 日立ハイテク クーガーズ

9位 アイシン ウィングス

10位 プレステージ・インターナショナル アランマーレ

11位 東京羽田ヴィッキーズ

12位 山梨クィーンビーズ

13位 姫路イーグレッツ

14位 新潟アルビレックスBBラビッツ



表彰選手



《プレーオフ・アウォード表彰者》

■プレーオフMVP

渡嘉敷 来夢 (ENEOS#10) 8年ぶり3回目

■プレーオフベスト5

※東京運動記者クラブ・バスケットボール分科会の記者により選出

長岡 萌映子 (ENEOS#3)

渡嘉敷 来夢 (ENEOS#10)

宮崎 早織 (ENEOS#32)

馬瓜 ステファニー (トヨタ自動車#3)

山本 麻衣 (トヨタ自動車#23)



表彰者（アワード&リーダーズ）



《アワード表彰者》

- レギュラーシーズンMVP
高田 真希 (デンソー#8) 9年ぶり2回目の受賞
- ルーキー オブ ザ イヤー
白崎 みなみ (姫路#6)
- コーチ オブ ザ イヤー
ウラディミール ヴクサノヴィッチ (デンソー) 初受賞
- レフリー オブ ザ イヤー
渡邊 諭 2年連続2回目の受賞
- ベストディフェンダー
川井 麻衣 (トヨタ自動車#4) 初受賞
- ベスト6thマン
渡部 友里奈 (デンソー#10) 初受賞
- ベスト5 <ガード>
町田 瑠唯 2年連続6回目の受賞
- ベスト5 <シューティングガード>
渡邊 亜弥 (三菱電機#45) 2年ぶり4回目の受賞
- ベスト5 <スマールフォワード>
赤穂 ひまわり 3年連続3回目の受賞
- ベスト5 <パワーフォワード>
渡嘉敷 来夢 (ENEOS#10) 2年連続11回目の受賞
- ベスト5 <センター>
高田 真希 (デンソー#8) 7年連続11回目の受賞

《第24回Wリーグ リーダーズ表彰者》

- 得点
白崎 みなみ (姫路イーグレッツ #6) 初
- アシスト
渡邊 亜弥 (三菱電機 コアラーズ#45) 初
- リバウンド
イゾジエ ウチエ (シャンソン化粧品 シャンソンVマジック#4) 初
- スティール
川井 麻衣 (トヨタ自動車 アンテロープス#4) 2年ぶり2回目
- ブロックショット
渡嘉敷 来夢 (ENEOSサンフラワーズ#10) 2年ぶり10回目
- フィールドゴール成功率
渡嘉敷 来夢 (ENEOSサンフラワーズ#10) 9年連続10回目
- 3ポイントシュート成功率
酒井 彩等 (アイシン ウィングス#55) 初
- フリースロー成功率
赤穂 さくら (デンソー アイリス#12) 3年ぶり2回目

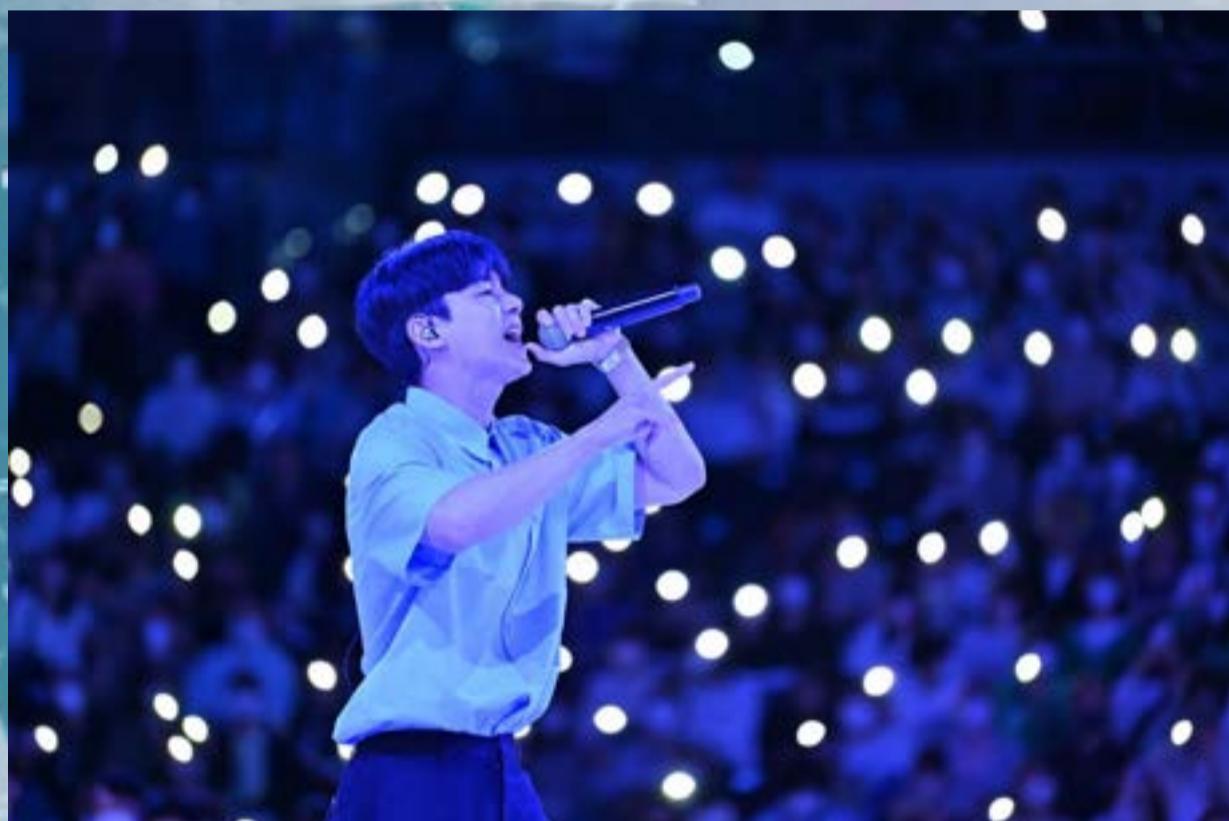
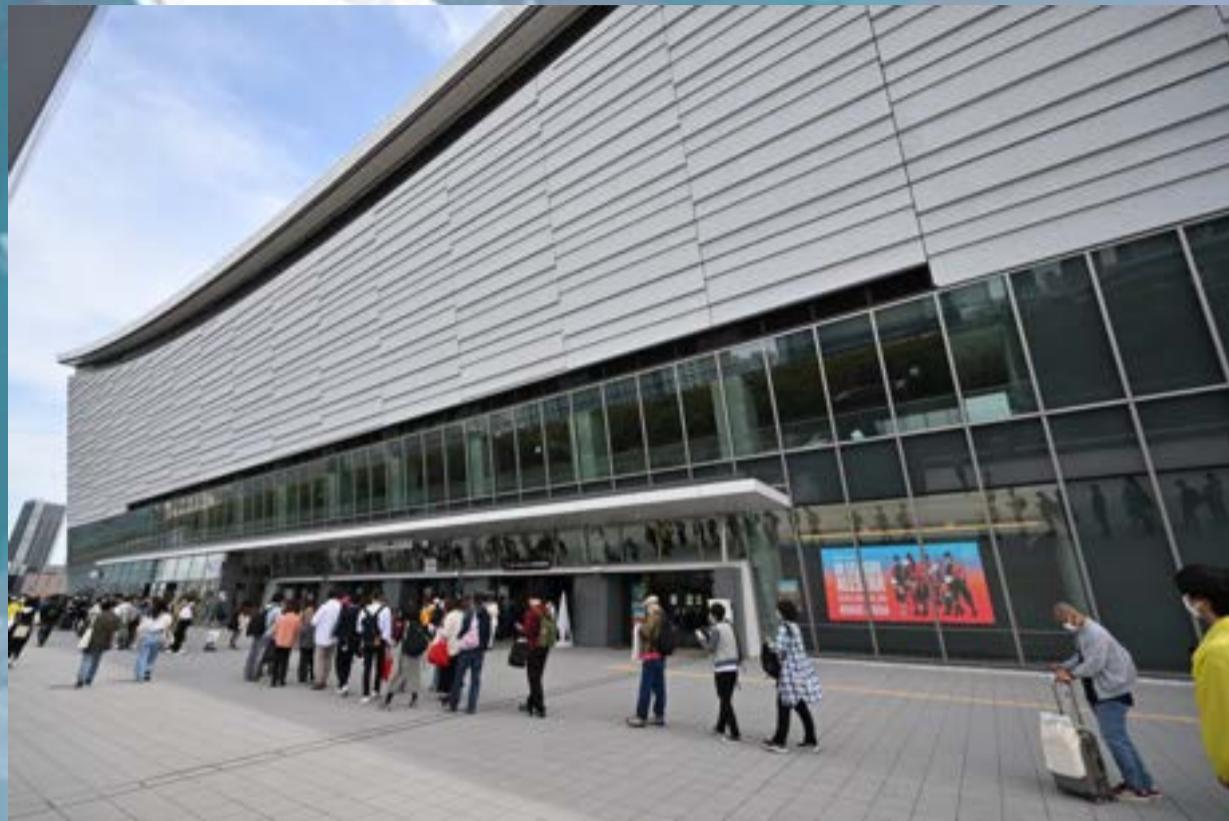
『京王観光 presents Wリーグオールスター2022-2023 in 有明』

ファイナルの熱気冷めぬの中、東京2020オリパラ会場となった有明アリーナで初開催。オールスター史上最多動員数を記録。



『京王観光 presents Wリーグオールスター2022-2023 in有明』

Day1には韓国WKBLが「RISING STARS」を編成し初参加、日韓の交流が新たなフェーズに向かう大きな一步に。



『京王観光 presents Wリーグオールスター2022-2023 in 有明』

『ALL BASKETBALL ACTION in 有明 Supported by 日本生命グループ』では東京オリパラ銀メダリスト同士の夢の対決がついに実現！



第24回 **W**リーグ SEASON REPORT

ACTION

Women's Japan Basketball League

【ACTION①】リーグ初のファンコミュニティ 「Wリーグユニバース」が始動

主管団体を問わず、Wリーグ国内全試合のチケットを最も早く購入できる最速先行販売のほか、様々な企画・コンテンツを提供し、Wリーグファンの更なる拡大・囲い込みを目指しました。

本取組の目的 :

- ・Wリーグファン層の顧客満足向上とコア化に向けたユーザーの拡大と囲い込み
- ・有料会員化により「複数アカウントによる大量予約→大量放出」の防止等チケッティング正常化によるサービスの向上

有料会員(5,000円/年)へご登録いただくと、特典が盛りだくさん!



先行(抽選)販売で
購入できる!



会員証(デジタル)を
発行!

一般販売よりも早く
購入できるチャンス!

※チケットの確保をお約束するものではありません。



フォトギャラリーが
見られる!



有料会員限定の会員証が
発行します。



有料会員限定
プレゼント!

シーズン毎にオリジナルグッズを
プレゼントします!



先行入場で
誰よりも早く入場OK!

開幕戦(代々木会場)・ブレーカー・
オールスターでの先行入場を実施します。



SAMPLE

表・裏

内側・付箋(2種)



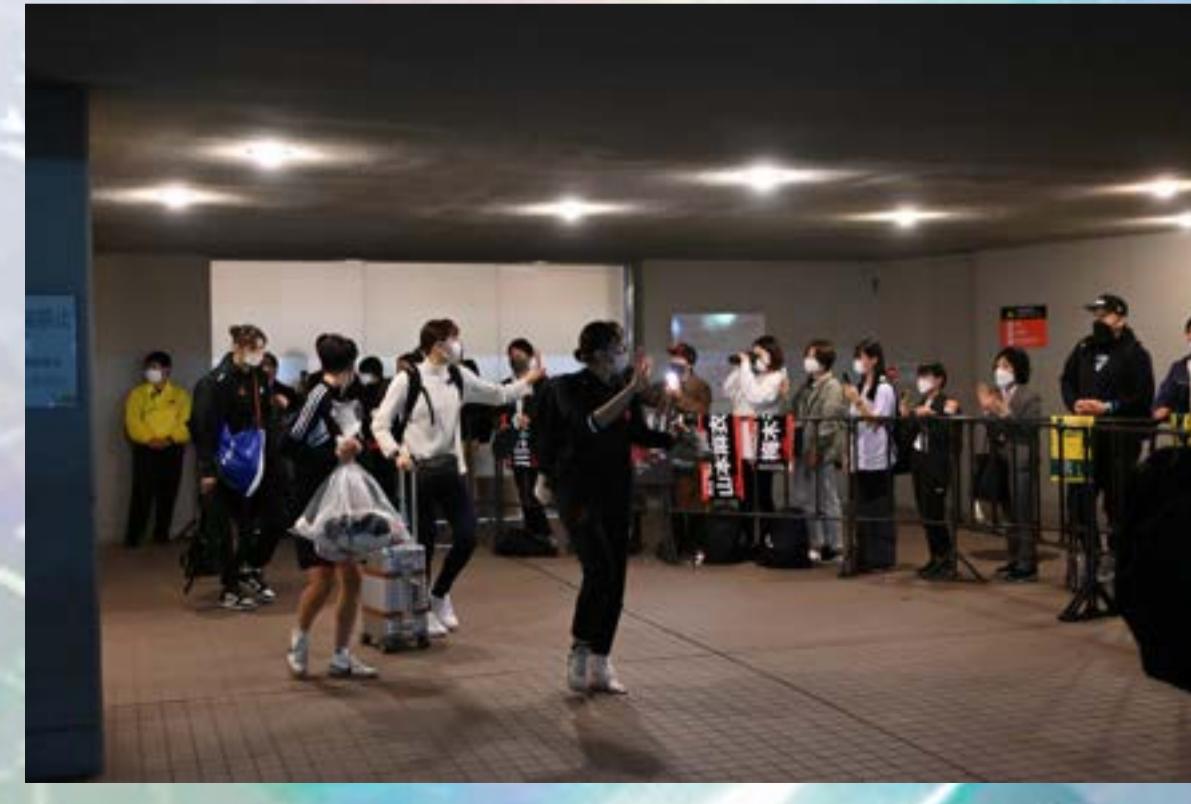
14:00-16:00 [10:30 開場] 11.12 SAT 11.19 SAT 14:00-16:00 [10:30 開場]

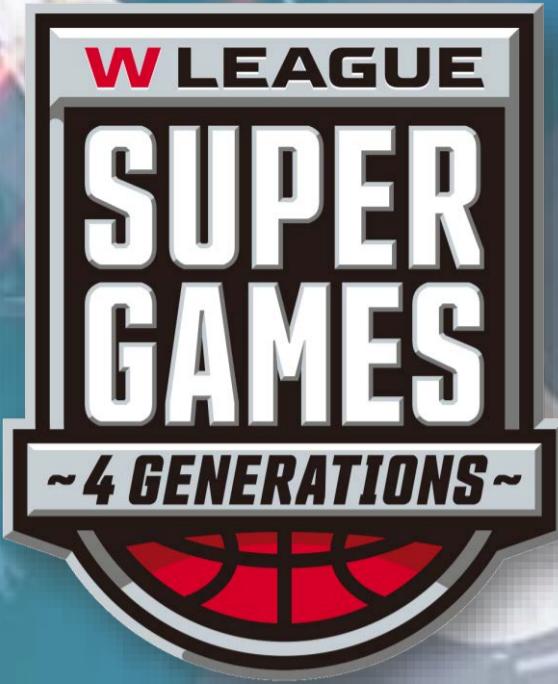
東京ドームホテル オーロラ (東京) トヨタ紡織刈谷工場グローバル本社

FAN
UNIVERSE
JAM

2022-2023

Wリーグファン感謝祭
FAN★JAM 2022-2023





【ACTION②】夢の4世代対決「WリーグSUPERGAMES」が初開催！

Wリーグを2世代にグループ分けし、これにU24&U19の日本代表チームを加えた4チームによる
スポーツ界全体においても歴史上未だかつてない世代間による禁断の対戦が実現。

本取組の目的：

- ・アンダーカテゴリー各年代の日本代表チームが世界を相手に最高のパフォーマンスを発揮できるよう、国内における最強の強化相手として、年代別の2チームを編成し強化に寄与。
- ・代表ウィンドウにおける新たなWリーグコンテンツの創出・ファン拡大。

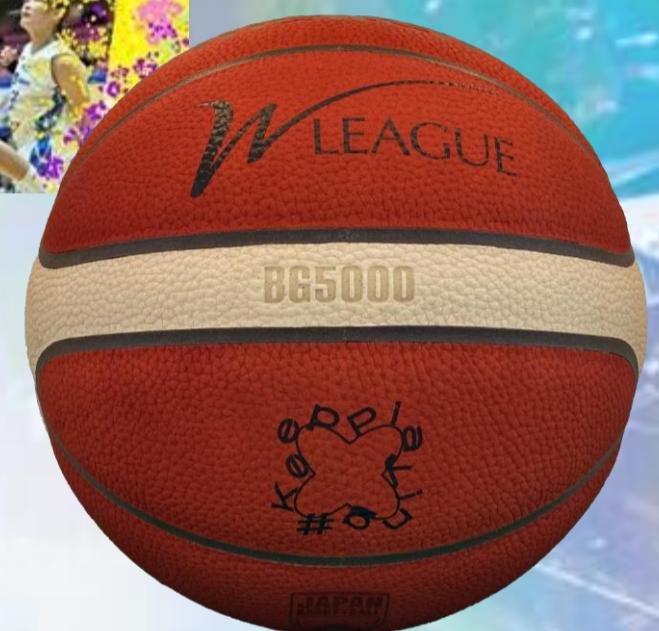


【ACTION③】2年目となった「国際女性デー」イベント

国内女性スポーツ他競技との連携・横断型でパワーアップ開催

本取組の目的 :

- ・女性スポーツができるを考えるとともに、競技がつながることで、女性の豊かな未来を考える機会とする
- ・女性スポーツの素晴らしさ・楽しさ・カッコよさを広く対外的に周知し、観戦する第一歩となる機会を創出する



#KeepPlaying #KeepPlaying #KeepPlaying #KeepPlaying #KeepPlaying #KeepPlaying #KeepPlaying #KeepPlaying #KeepPlaying #KeepPlaying



#Keep
Playing





【ACTION④】バスケットだけではない多彩な人材創出へ 現役時代から学べる機会「Wリーグアカデミー」を開講。

本取組の目的：

「Wリーグアカデミー」は競技引退後も続く人生で、地域や社会に力強く貢献する女性を育てる目的にて、現役時代から社会との接点を作り、必要とされるスキルやマインドセットを学ぶ機会として本年度より定期的に開催。

実施講座 一覧

第1回 FEMCATIONセミナー「女性のカラダの知識講座」高尾 美穂氏（産婦人科専門医）

第2回「今のWリーグ選手に伝えたいこと」三屋 裕子氏（日本バスケットボール協会 会長）

第3回「アスリートが知っておくべきお金の話」奥村 武博氏（公認会計士・元プロ野球選手）

第4回「Wリーガーキャリアの活かし方」大浦 征也氏（パーソルキャリア株式会社 doda編集長）



【ACTION⑤】企業チーム混在リーグだからできること。 企業のテクノロジーや取組を「Wリーグ」の会場で実践。



事例：「センサリールーム」の設置

チームオーナー企業である富士通株式会社協力のもと、発達障がい等に伴う「感覚過敏の特性」があるお子様とそのご家族を対象に、安心してバスケットボールを楽しんで頂くための「センサリールーム」を設置し、参加するご家族が安心して試合観戦できる環境を提供しました。



バスケットボール会場特有の大きな音や強い光、人込みが苦手な子どもたちでも、安心して観戦できるよう遮音等の工夫が施された特別観戦室を設置。オールスター出場選手も訪問しました。

参加者の声：子どもが音と暗さ・光が苦手で「やるのは楽しいけど観るのは嫌」と誘っても断られていきました。今回ルームを利用したことで、何度も外の座席に出て、落ち着いて観戦することができました。子どもたちに素晴らしい経験をプレゼントしていただき、本当にありがとうございました。
子供2人連れでは一生無理なことだと諦めていました。観戦を生で体験させていただいたことは子どもたちにとって大きな成長につながったと思います。このような観戦の機会をいただけて、本当に感謝しております。

参加企業の知見やリソースをリーグの一つの武器に。
社員のためにだけあるチームではなく、地域と共に存・共生し、社会に貢献する。
Wリーグはチームの多様性を力にして、新たなフェーズに向かいます。



たくさんのご声援、誠にありがとうございました



LOVED
W LEAGUE